

第24回名古屋高速道路公社料金問題調査会議事録の要旨

開催日時 平成16年7月13日(火)午前10:00～11:10
場所 KKRホテル名古屋 3階 蘭の間

会議方式 公開(傍聴者 1名)

1 諮問

名古屋高速道路の新規開通(高速16号一宮線)に伴う料金について公社理事長から調査会会長に諮問を行った。

2 議事事項

(1) 第23回料金問題調査会議事録の要旨
内容確認後 了承

(2) 第24回料金問題調査会参考資料
資料説明

(質疑内容)

委員 主婦の立場から、小牧線から四谷方面に利用しておりますが、平面街路で信号待ちして時間がかかるより、高速を利用して時間を短縮しておさんどんができるのはありがたい。
もっと便利性をPRしたらどうか。
また、安く利用できる回数券の利用促進のPRをしたらどうか。

委員 日頃、千円札をどう有効に使うかについて考えているので、説明にあった金額の大きさに驚いている。
今、地球温暖化、エネルギー問題のテーマを議論しており、CO₂の排出を低減するため、省エネやゴミの削減(買い物袋利用減)など進めている。
また、消費者として、より安全なものを、迅速に手に入れたいので、高速道路を事業者が利用しやすいことも必要と考えている。

公社 回数券のPRについては、前回の料金改定で、お客様が料金所で購入しやすい1万円券、2万円券を発行して、販売促進している。
地球温暖化に対しては、渋滞は多少あるが、一般道路の信号待ちと発進に比べ高速道路はCO₂排出量が約半分になるなど、(全体的な交通量の増加の問題もあるが)環境負荷の少ない道路と考えている。

委員 改築費はなぜ償還対象に含めるのか。

公社 高速道路の資産価値を高めるものを改築費として償還対象に含めている。阪神の震災から震災対策の改築、渋滞対策等を行っており資産価値を高めている。
また、新規建設と同様の財源構成になり料金収入でまかなう維持的なものと異なっているため、償還対象としている。

委員 小牧線は別料金であるが、一宮線も別料金にするのか。今回別料金も含めて諮問するのか。
一宮線1500億円は、名古屋高速全体で償還する計画であるのか。

- 公社 一宮線も含めた62.2km全体をプールで償還を考えている。
小牧線の別料金圏について説明（地域内交通や高速ネットワークの一部としての使い方の独自性、環状線の迂回機能強化、利用距離に応じた料金）し、こうした視点も踏まえて、一宮線も審議して頂く。
- 委員 道路のコストで、前回供用時の高架道路と比べて、一宮線が安くなっているのは何故か。
- 公社 大高南は、実際の延長ではなく、ランプ部を除いた本線延長で費用を割っているのでキロ単価が高くなる。
一宮線は、国道22号の広い道路上で工事をしているので、切り直し費用等仮設費が安くでき、また、地盤が良い・用地買収がないこともあった。そして桁を箱形から板にしてシンプルにしたり、コンクリートの柱を多用してコスト縮減を図った。
- 委員 車線が少ない区間があると聞いたが。
- 公社 ご指摘のとおり、一宮出口～国道155号の一宮入口までの間、片側の2車線の構造であり、キロ単価が安くなる要因となっている。
- 委員 一宮線の供用後の改築費はないのか。
償還期間は40年以内になるのか。
- 公社 改築費の主なものは、耐震補強工事で16年度完成である。
今後も、騒音対策や渋滞対策など課題が残っており、改築がゼロとなることはない。
償還期間について一般有料道路では、赤字で借金を返せず、税金を投入して償還を完了する場合があるが、公社としては、県、市から負担をしてもらうのではなく、料金収入により40年償還で収まるよう努力する。
- 委員 建設費のコスト縮減はともかく、管理費のコスト縮減は、結果としてサービス低下にならないか。
- 公社 料金徴収の経費は、ETCの普及施策により、（高齢者雇用の減という問題はあつものの）サービスの向上と経費の縮減の両方を可能にしている。
また、道路管理パトロール（黄パト）は、事故、故障車に対応して迅速で安全な交通の確保を目的として公社独自で巡回している。こうした業務や、清掃業務の回数などについては、必要なサービス水準について、いろいろデータをとって検討した上で、経費縮減を図っていく。
このほか、塗装の方法についてコストのかかる塗り替えの回数低減のため寿命の長い塗装の採用や、名古屋で初めて静電気を利用した塗装を使用するなど、新しい技術を積極的に取り入れてコスト縮減に努めている。

3 その他

7月26日の名古屋高速道路の利用者等の意見を聴く会の公開について
利用者団体から聴く場は公開、公社モニターから聴く場は、個人の意見をお聞きすることから非公開という形での開催で了承された。

以上